

配布用

2026 / 6 / 10 (水)
15:15 ~ 16:15 (予定)
ZOOMによるWEB配信

令和8年度長野県地域計画推進研修会

「地域計画のブラッシュアップに係るポイント」

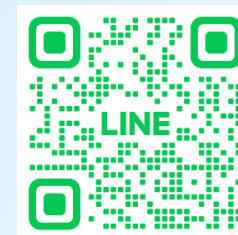
地域戦略実行アドバイザー
地方考夢(こうむ)員®研究所代表
(一社)全国農業会議所専門相談員

澤畑 佳夫

**無断での録音
・転用・複写は
禁じます**

講師： 澤畑 佳夫（さわはた よしお）

昭和33年2月生，元茨城県東海村職員、自治推進（自治基本条例、協働の指針、男女共同参画、行政懇談会、村民相談室等を担当）課長、農業委員会事務局長（平成28・29年度）等を歴任。1年間の再任用職員も経験し，平成31年3月末に退職。農委事務局長時に全農地を対象とした5年後の農地利用意向調査や**日本人にあったファシリテーション**を活用した農業集落座談会等を企画・実施し，その結果を基に農地中間管理事業を活用した大幅な農地集積等も行った。その手法や考え方は，これからの農地集約，遊休農地の発生防止，解消等の先進事例として全国から注視されてきた。現在，農業分野をはじめ行政・JA・団体・企業等も対象に現場出身者ならではの目線で「初めての方でも分かり易い」講演・研修会等を行っている。その受講者はこれまでに「**43都府県約550会場で延べ45,000人**」，受講後のアンケートでは満足度が常に90%を超えている。**理論よりも「現場で使える型」に落とし込む，失敗事例を積極的に教材化，「できるところから始める」スモールスタートの設計等を提唱している。**また「**参加者が納得する合意形成に導く専門家**」としても日々多忙な毎日を送っている。



☆（一社）MFA（会議ファシリテーター普及協会）公認ファシリテーター

【連絡先】 090-4948-3575 E-mail : s-gonta@ozzio.jp

地方考夢員研究所
（問い合わせ先）

本題に入る前に 私がなぜ今の仕事をしているのか！

今の私があるのは、約50年前
渡辺 博史先生との出会い

(当時:流通経済大学社会学部教授/2001年永眠)



私は19歳の学生。県が主催の事業
(新成人者が対象)村からの依頼を受けて
参加。土曜日の午後1時～4時までの講演

アルジェリア民主人民共和国の
「ラシッド」青年の話

たった一人の青年の行動が周りの
「人」そして地域の**環境を変えた!**



- 1 どの学校を出たかではなく、**何が出来るかだ！**
- 2 人に何をしてもらえるかよりも、**自分には何が出来るかだ！**
※ 上手くいかないのは全て自分のせいだと思え。**他者の責任にはするな！**
- 3 **仕事は**言われてするものではなく、**探してするものだ！**

この考え方は、あらゆる分野でこれから役に立つと思った。私は、この渡辺先生の教えを胸に抱き、その後役場の職員として、そして定年後の現在は講師やアドバイザー等の活動の中で皆さんにもお伝えしている。

皆さんの前で、本日お話が出来たことを「**誇り**」に思う。

私の役目は、皆さん(あなた)の①気付き ②不安や心配ごとの軽減
③今後の活動力アップのための支援を行うことである。

地域計画のブラッシュアップについての現状(私見)

令和7年度は ⇒ 取りあえず計画が出来たので「小休止」状態?

令和8年度から ⇒ 再スタートさせたいと考えているようですが・・・

(1) 地域計画を一緒に推進する農業委員、農地利用最適化推進委員が統一改選を向かえる年である。

全国で約1,700の農業委員会がありますが、そのうち約7割が改選時期を向かえる(7月)。そして約5割(想定)が新任委員となる。

(2) 地域計画の策定に携わった職員がこの2年間で大幅に異動している。

同時に農政(農委事務局も含む)関係の職員が減ってきている。



計画を作った方々と、進める(ブラッシュアップ)方々が異なる

地域での協議を始める前に、「関係者間で再確認が必要」となる

新しい担当者等の疑問・質問

(1) 地域計画のエリアはどうやって決めたのだろうか？

→ 旧町村、中学校区、小学校区、自治会・町内会、大字、土地改良区、水利組合、集落営農組織、多面的機能、中山間等直接支払制度 等

一つの市町村の平均策定数 **11**

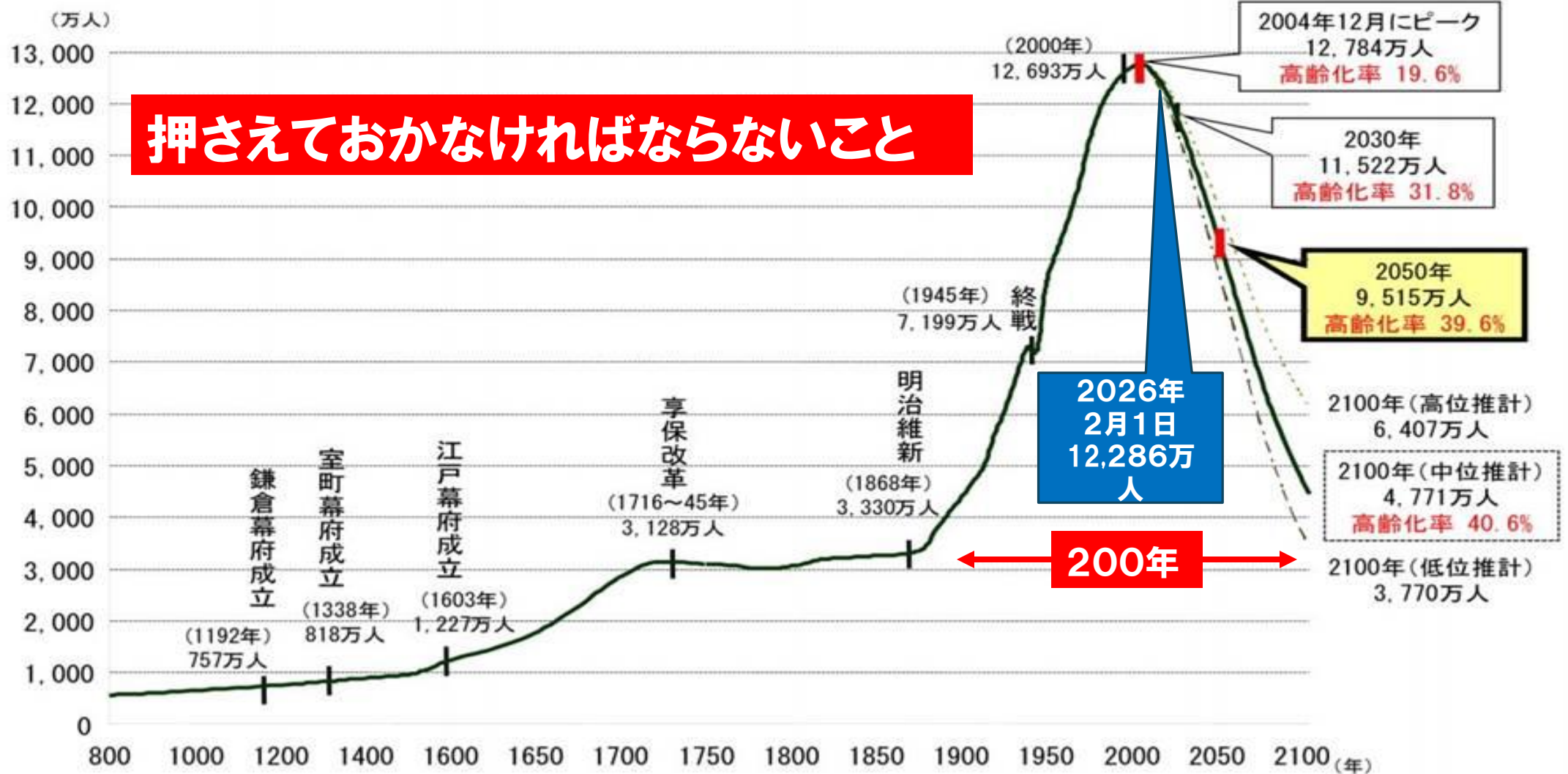
(2) 説明会の案内状を送付した方の「1割も参加しなかった」と言っていたが・・・

(3) 1回の説明会で「地域の了解を得た」と言っていたが・・・

「ブラッシュアップ」を進めるに当たって不安である、という相談
具体的に「何からどのように進めればよいのか！」との質問が増えている！！

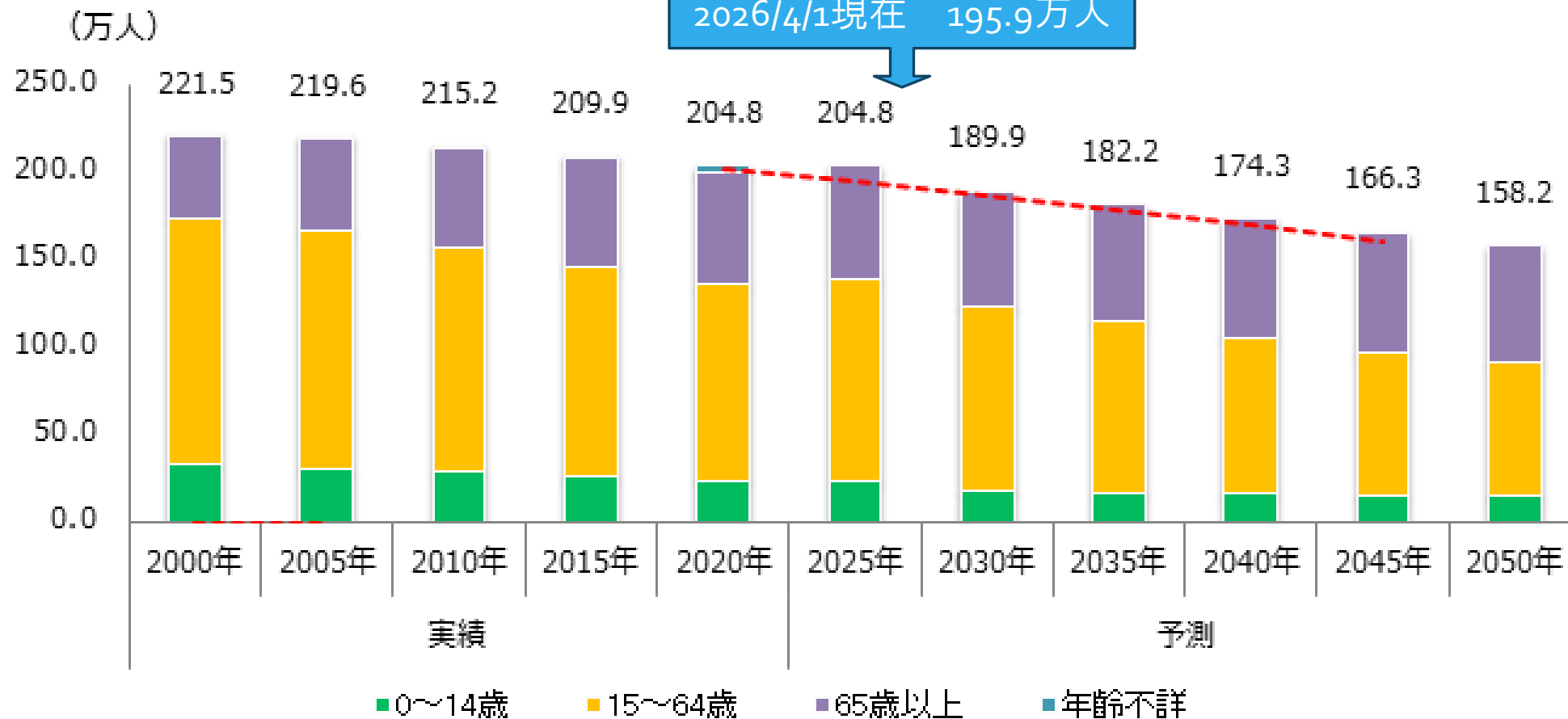
◎ 順調に進んでいると思う市町村は ⇒ 継続・発展

日本の人口推移



出典:「国土の長期展望」中間とりまとめ 概要(平成23年2月21日国土審議会政策部会長期展望委員会)

長野県の人口推移



2026/4/1現在 195.9万人

【2020年】

総面積 (km ²)	13,562
人口密度 (人/km ²)	151.0

平均年齢 (歳)	49.6
----------	------

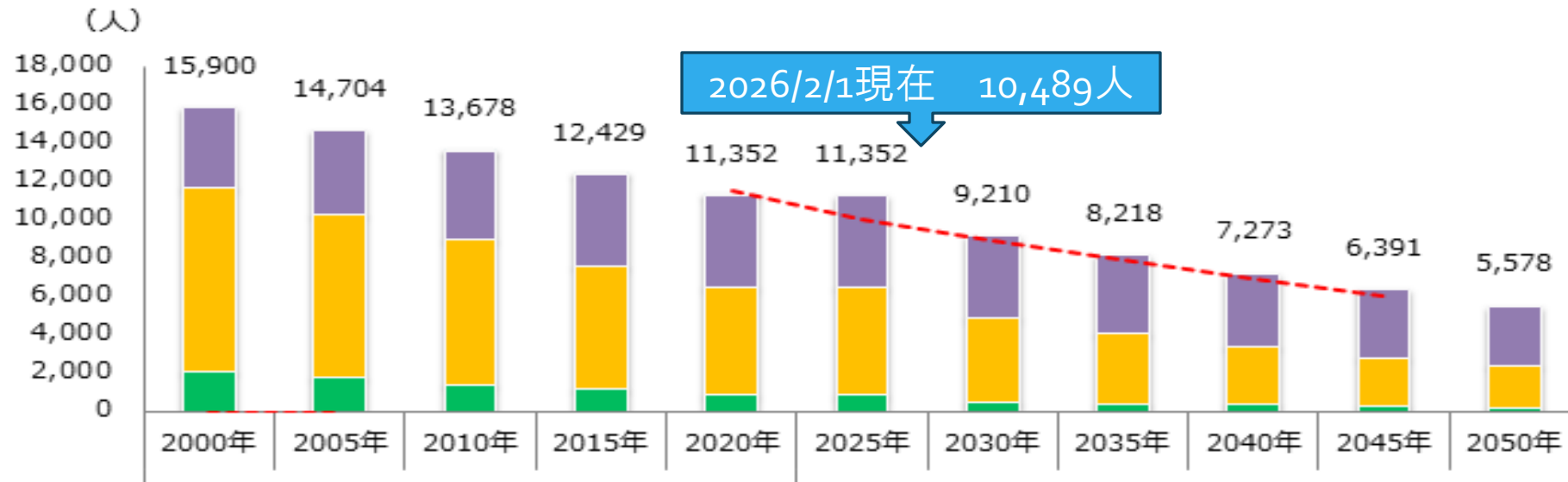
昼夜間人口比率 (%)	99.8
-------------	------

※昼夜間人口比率のみ2015年時点

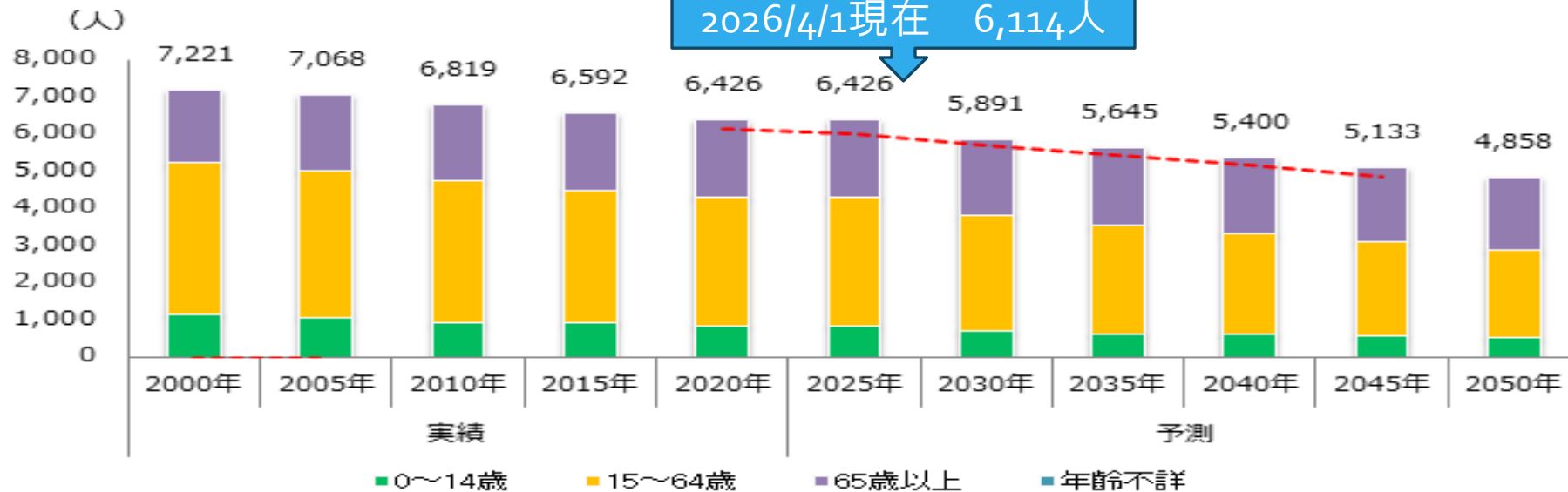
※図中の点線は前回2018年3月公表の「将来人口推計」の値 © jp.gdfreak.com

「農業の担い手と同時に
「の担い手も考えなくては！」

山ノ内町の人口推移



豊丘村の人口推移



平成28年度遊休農地調査がキツカケ

遊休農地の解消とは

人間に例えるなら「**掃除**」だ

「**掃除**」にはお金もかかるし、時間もかかる



では、どうすればいいのか？

「**掃除**」に力を入れなければならない！

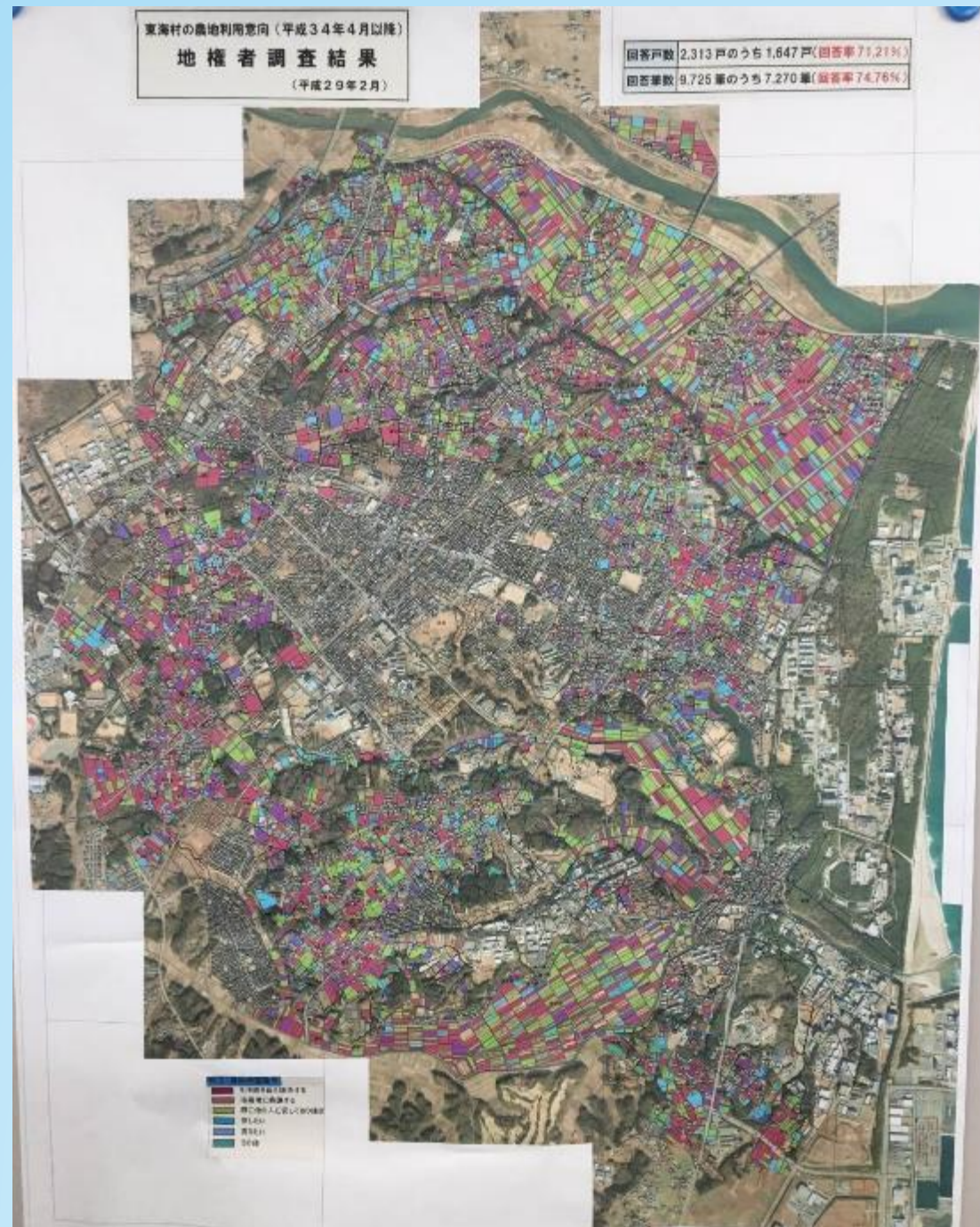
そこで「**地権者を対象に5年後の農地利用意向調査**」を行う

東海村の農地利用意向(地権者)調査報告 (平成29年3月)

農地を所有する地権者2,313人
(村内1,762人 村外551人)
総筆数 9,725筆
(畑 約4割 田 約6割)

回収率 71.2%

色	内容
赤	自ら耕作する
ピンク	後継者に移譲する
緑	既に他人に貸している
紺	貸したい
青	売りたい
水色	その他
グレー	

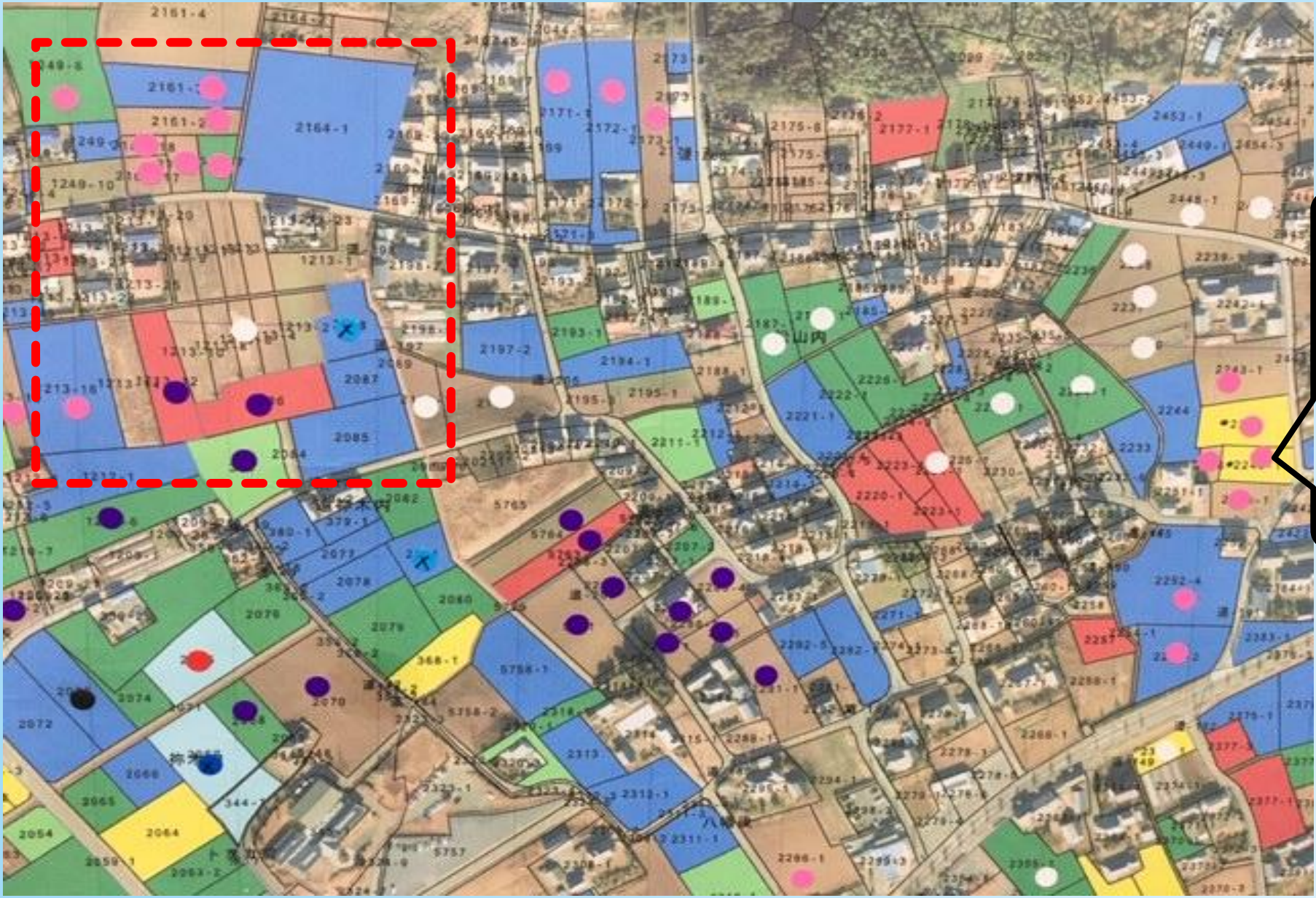


東海村〇地域の全農地の

地権者意向調査結果と認定

農業者の耕作状況（平成28年度）

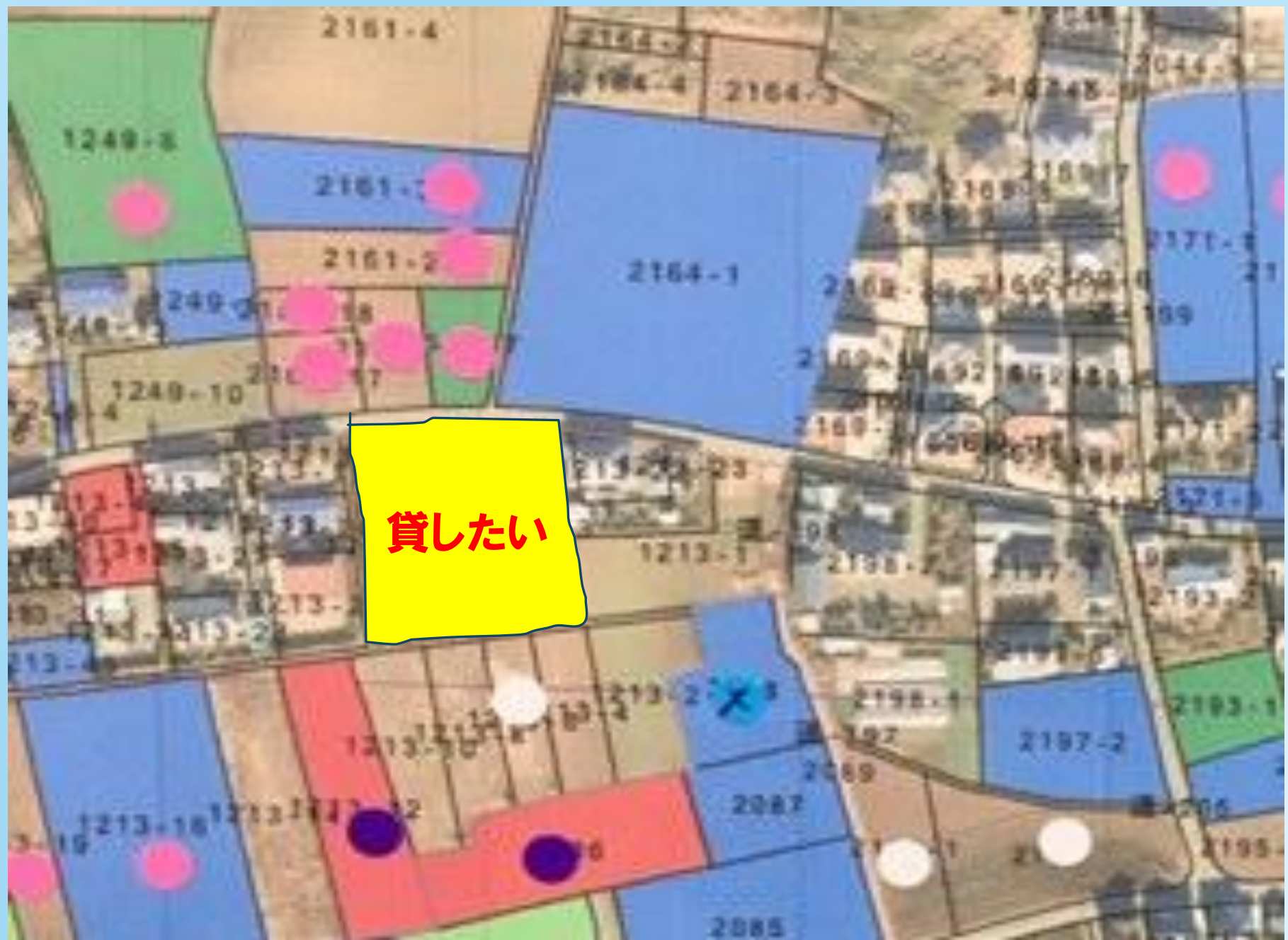
認定農業者



- 自作する
- 後継者に移譲
- 貸している
- 貸したい
- 売りたい

講師の失態

(当時農業委員会事務局長)



「木を見て森を見ず」にならないように注意！！

Aさん

Cさん

Bさん



経緯：策定時に地域で「地域計画」についての説明を行った際に

(A市) 国では・・・(法律で定めたので)
令和7年3月までに作らないとならない
各種補助金の申請にも影響する

→ 言っていることは**その通り(正しい)**なのですが・・・
住民が「自分ごと」になってくれない、と悩んでいる

**あなたの説明で、相手が「
」「
」しますか！**

(B市) 耕作者の状況等からの説明

現在は〇〇だが、10年後はこのようになる！

さて、如何いたしましょうか、と問いかけ

確実に成果をあげてきた市町村で、行なわれていたことは！！

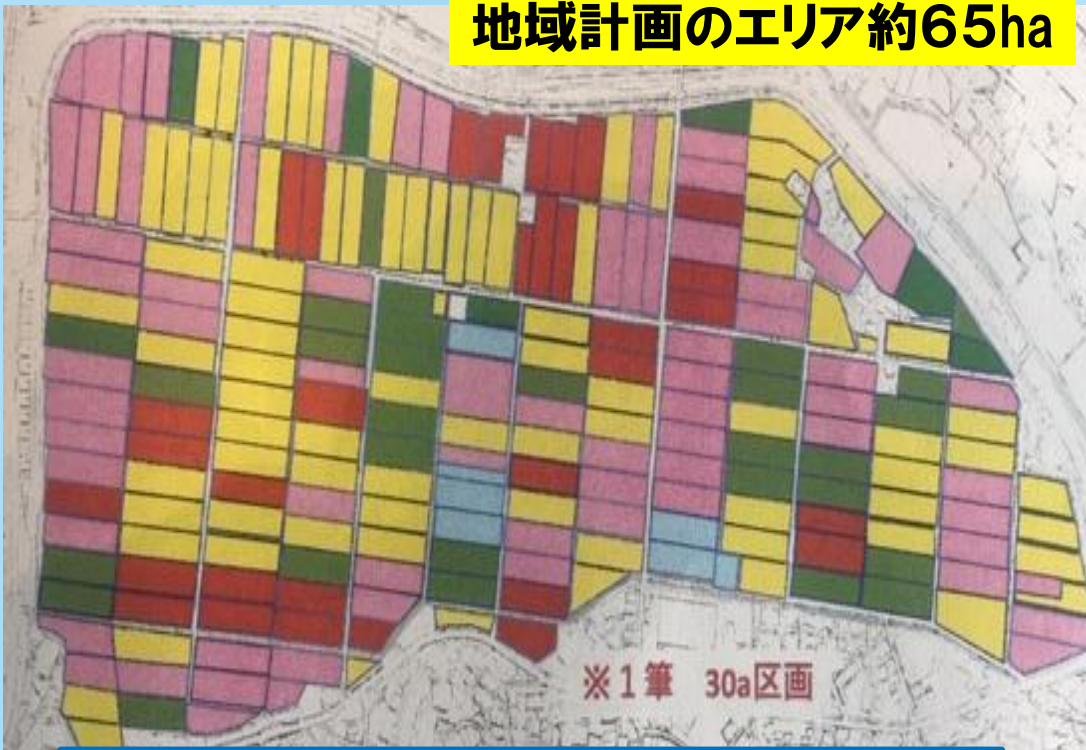
まずは現状(洗い出し)、 を知っていただくために

実際の**耕作者**および**年齢調査**



 化

地域計画のエリア約65ha



現在 地権者91名 耕作者75歳以上14%

赤

76歳以上

ピンク

66~75歳

黄色

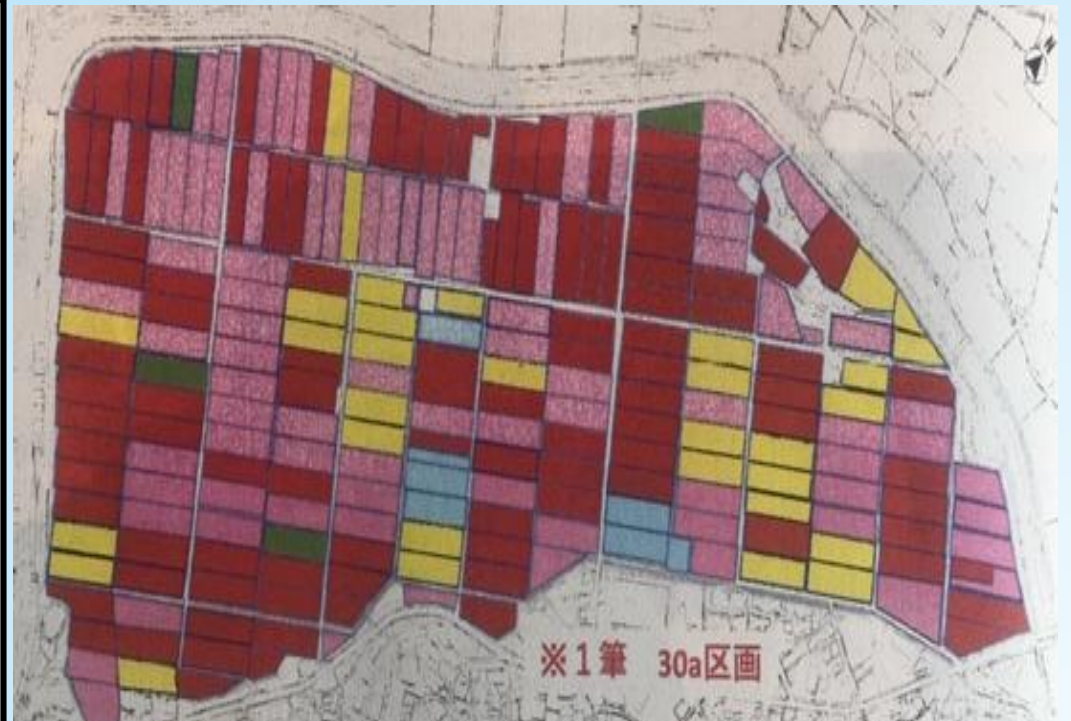
56~65歳

緑

46~55歳

水色

45歳以下



10年後 耕作者75歳以上**45%**

担い手がいないので出来ない！と言われるのだが

担い手不足の本質は、「やる人がいない」

のではなく「_____ **られない**」ことにある

・ 高齢化 ・ 作業過多 ・ 先が見えない **経営** 等

農地をまとめる(集積・集約)ことは、

この規模なら「_____ **られる**・ _____ **継げる**」

(**経営**) と言える農業にするための **手段**



だからこそ、「集積・集約を考えた目標地図」の作成が必要になる

そして、なぜ集積だけでは**ダメ**なのか！

多くの地域で起こっている現象(例:田の場合)

①農地は集まった ②担い手も一応決まった

でも・・・

作業はバラバラ
水管理もバラバラ
機械の活用も非効率
移動距離・時間がかかる



結果
担い手が
「**疲弊**」して
続けられない

「集約」は、単に面積を集めるだけの話ではなく、
「**作業・経営・意思決定を一本化する**」ことが本質である

担い手へのヒアリング(例)

事務局A: 現在何haくらい耕作しているのですか？

担い手: 約30haです

事務局A: あとどのくらい耕作できますか？

担い手 : もう無理、これ以上増やせない！

事務局B: 現在何haくらい耕作しているのですか？

担い手: 約30haです

事務局B:

担い手:

事務局B:

担い手: それなら、あと10haくらい増やせるかも！

地域で最初にやることは「集約の設計図づくり」

そのために具体的に進めていくこと

(1) 現場の実態の____化(必須)

- ① 用水系統(誰が止める、開ける?)
- ② 進入路(軽トラ/大型機械がOK?)
- ③ 傾斜・畔の高さ・老朽度 等
- ④ 現在の作付け・品種
- ⑤ 実際の耕作者

この時点では
「誰の農地か」は
二の次である

(2)集約できる単位を見つける(例)

- ①同一水系
- ②同一作付けが可能
- ③機械が一回に入れる
- ④耕作者が限られている
- ⑤境界が明確となっている



※まずは**10ha程度まで**が現実的とを感じるが？

※ここでも地権者の意向よりも「**物理的条件**」を優先させて考える

協議が進まない、
纏まらない



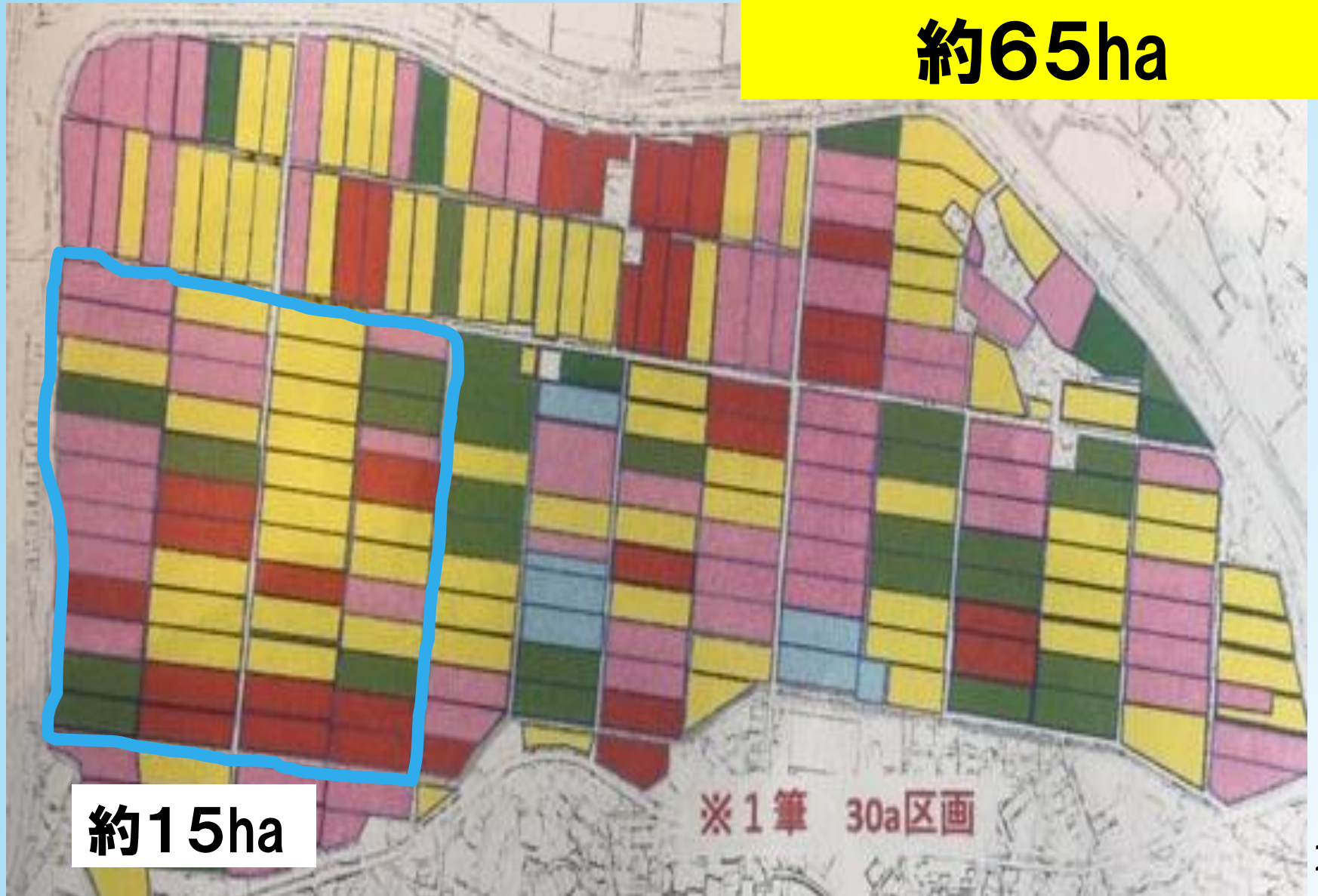
お薦め

【
スタート】



「小さな成功
体験」の積み
重ねが重要

地域計画のエリア
約65ha



約15ha

皆さんのまちを、
より元気にするのは
「**か、**」です

「出来るか出来ないか」ではなく
「**か、**」です

決められた資源(人・もの・カネ・情報・時間・知的財産)を活かし
「何を**残し**、何を**手放し**、何を**新たに創る**のか！」

貴方の
「**強み**」は
何ですか！



そして貴方には
何が**できますか**！

※ 進化論を唱えたダーウィンは、「この世に生き残る生物は、最も力の強いものか？ そうではない。最も頭がいいものか？ それでもない。それは()に**適応**できる生き物だ」という考えを示したとされています。